The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『國風詩集合採』 : 阮朝ベトナムにおける漢字・字喃・国語字表記の詩集
Author(s)	佐藤, トゥイウェン; 清水, 政明; 近藤, 美佳
Citation	大阪大学世界言語研究センター論集. 2012, 7, p. 263-283
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/4418
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『國風詩集合採』―阮朝ベトナムにおける漢字・字喃・国語字表記の詩集―[1]

Quoc Phong Thi Tap Hop Thai: Vietnamese Anthology in Nguyen Dynasty written in Chu Han, Chu Nom, and Chu Quoc Ngu

佐藤トゥイウェン[*1]
清　水　政　明[*2]
近　藤　美　佳[*3]
SATO Thuy Uyen
SHIMIZU Masaaki
KONDO Mika

Keywords：*Quốc Phong Thi Tập Hợp Thái, Chữ Nôm, Chữ Quốc Ngữ, Ca dao,* Northern dialect
キーワード：國風詩集合採，字喃，国語字，歌謡，北部方言

1. 資料の概要

本資料は，ベトナム阮朝期の維新庚戌（1910）年に編纂され観文堂より出版された，ベトナム独自の定型詩「歌謡（ca dao）[2]」の詩集である[3]。内容はその多くが現代に伝わるものであり，『詩経』「国風」の様式に倣い，ベトナム各地に伝わる歌謡を収集しまとめたものである。まず個々の詩を四字句よりなる漢文に訳し，それを本文として記載する。その後に割注の形で，原文の字喃表記を示し，各葉の下部にローマ字（国語字）横書きで原文を表記している。

現代にもその多くが謡い継がれている歌謡の 20 世紀初頭における実態を知りうる点,またその体裁が漢文―字喃文―国語字文という三種の文字を併記する形を採っている点が注目される。特に注目すべき点として，その国語字表記が非常に特徴的で，その分析により 20 世紀初頭におけるベトナム語北部方言の様相を垣間見ることができる。

---

*1　大阪大学外国語学部・非常勤講師
*2　大阪大学世界言語研究センター・准教授
*3　大阪大学大学院言語文化研究科・博士前期課程大学院生

1　本稿は，基本的に資料紹介（1～5）を清水，資料の日本語訳を佐藤，訳注を近藤が分担し，最終的に 3 人で全体の内容を調整し成稿に漕ぎ着けたものである。

2　「歌謡（ca dao）」とは，ベトナム独自の詩の形式（6 音節・8 音節を基調とする「六八体」）で，諺に相当する「俗語（tục ngữ）」と同様人口に膾炙し，子守唄，童歌，教訓，労働，恋愛等の感情を詠いあげる文学形式である。

3　本紹介文で利用するテキストは，第二著者清水が個人所蔵する版本である。本テキストは，現広島大学大学院文学研究科八尾隆生教授が在ハノイの古書店で見出されたものを譲り受けたものである。ここに記して，謝意を表する。

テキスト全体の構成は「承天府」,「山西」（廣威，國威，永祥を含む),「宣光」,「諒山」,「雑誌」の全５巻から成り，それぞれ 12 編，56 編，2 編，1 編，42 編，合計 113 編の詩を収める。

第一巻「承天府」の冒頭にその編纂過程に関する簡単な記述が見える。

「　　仙峯夢蓮亭希亮甫撰
　　太僕卿杜鑑湖評
　　閣堂梅貞叔評
　　進士東溪阮瑊甫閒評

夢蓮所述南國風百餘篇別著他集，茲畧採取千首，以備諸詩体 章章自有原音　　」

（訳：　　仙峯夢蓮亭　希亮甫（Hy Lượng Phủ）　撰
　　太僕卿　杜鑑湖（Đỗ Giám Hồ）　評
　　閣堂　梅貞叔（Mai Trinh Thúc）　評
　　進士東溪　阮瑊甫（Nguyễn Tuần Phủ）　間評

私夢蓮が著した『南国風』百余篇及び別に著した他集を，ここに簡略化し千首を採り，それを『詩経』の体裁にしつらえた。[割注:章句毎にベトナム原音を付した。]　　）

撰者希亮甫には先に『南國風』百餘篇等の著述があるとのことであるが，例えば *Di sản Hán Nôm Việt Nam – Thư mục đề yếu –*（『越南漢喃遺産―書目提要―』，1993，漢喃研究院＝フランス極東学院編，以下『漢喃遺産』，後続の[数字]は本目録の通し番号）等，阮朝期の漢字・字喃書籍を収める目録には，『南國風』の書名は見えない。ただ，本資料と同一の内容と推察される別名の書『國風詩演歌（國風詩雑誌)』の写本が存在することが『漢喃遺産』[2850]に紹介されており，それを『(南）國風』と呼んでいた可能性もあることから，そういった著作と他の「詩集」を「合わせ」,「選び採った」という意味で『國風詩集合採』と名付けたのかも知れない[4]。

撰者希亮甫については，『漢喃遺産』には本資料以外の著述は見えない。なお，同一の号「仙峯夢蓮亭」を冠する阮登選（Nguyễn Đăng Tuyển）という人物とは著作内容（『漢喃遺産』[3018, 4511]）に共通する部分がなく，別人とみなすべきであろう。

2. テキストの形式

記載言語・文字種は上述の通りであるが，実際の様態は「付図」を参照されたい。全 44

4　『漢喃遺産』[2253]に『南風詩集』なる資料が紹介されており，「ベトナム各省，府を詠った漢字，字喃の詩集，承天 12 編，山西 56 編，宣光 2 編，諒山 3 編，新誌 42 編」とあり，本資料の構成，内容ともに酷似することから，本資料の体裁に成った時点ですでに「詩集」と呼ばれていた可能性もある。

葉，各半葉のサイズは 275mm x 155mm，木版本である。

『漢喃遺産』[2851]には以下の 3 種が登録されており，本紹介文で利用するテキストは葉数，サイズ，内容から見て（a）と同一テキストと考えられる。

（a）VNv.148[5]:　88 頁，27.5 x 15.5，版本
（b）AB.182:　94 頁，31.5 x 21.5，写本
（c）VHv.2410:　38 頁，27.5 x 15.5，写本

3. 成立事情

既述の様に『詩経』「国風」の体裁に倣って各地の詩歌を採集し，その漢語訳，ベトナム語原文を記すという形態の書籍は，本資料以外にもいくつか散見される。例えば,『漢喃遺産』には以下のような資料が見える。同書目の記述に従うならば，いずれもベトナムの歌謡・俗語を『詩経』「国風」の体裁に倣い漢訳したものを主な内容とする。

（1）『國風偶詠』[2849]（VHV.2248）
（2）『南風女諺詩』[2254]（AB.343）
（3）『南風解嘲』[2252]（AB.348, AB.232, …）

（2）は陳名案（1760-?）の漢訳によるとの記述が見えることから,『詩経』「国風」の体裁に倣って各地の歌謡・俗語を収集しそれを漢訳するという発想は阮朝以前に既にあった可能性がある。そこで，既に字喃により詩文を記すことが一般的であった当時において，ベトナム独自の詩歌を漢訳する必要性について若干考えたい。

まず，ベトナムにおける『詩経』の受入状況について概観する。『漢喃遺産』には，以下の『詩経』に関する書籍が見える。

【漢文書】
『毛經策略 / 詩經略編』[2138]
『詩書策略』[3465]
『識名圖說 / 詩經識名圖說 / 新編詩經識名圖說』[3661]（黎叔𩏂編，成泰十四年（1902））
『詩經』[4906]
『毛詩集說彙選』[4728]（江巢編撰）
【字喃文書】
『詩經演音』[3424]
『詩經演音』[3425]

5　在ハノイ漢字字喃研究院所蔵番号。A, AB, AC, AD, AE, AF, AG, AH, AJ は，1958 年に在ハノイフランス極東学院より移管されたもの，VHb, VHv, VHt, VNb, VNv は，1958 年から 1979 年にかけて国内各種書院或いは民間より譲渡されたものを示す。

『詩經演義』[3426]（多文堂，明命十七年（1837）印本）
『詩經解音』[3427]（光中五年（1792）印本）

特に後者 4 本は『詩経』の内容をベトナム語（字喃）で解説した資料であり，『詩経』がベトナムでどう読まれていたのかを知る上で重要である。『詩経』が古典文学作品の中で引用された例は枚挙に暇がないが，その一例として，ベトナムを代表する古典作品である Nguyễn Du（1765 - 1820）の *Kim Vân Kiều*（『金雲翹』）に見える以下の諸例を見られたい。

【第 247 句】　Sầu đong càng lắc càng đầy,（愁いは揺さぶるほどに厚く募り）
Ba thu dọn lại một ngày dài ghê.（三秋を畳み込んだ様に一日は長い）

後半の一句は「国風（王風）」「采葛」の「彼采蕭兮，一日不見，如三秋兮。」が出典であろう。同様に，

【第 503 句】　Vẻ chi một đoá *yêu đào*,（私はただ一朶の桃夭のようなもの）
Vườn hồng chi dám ngăn rào chim xanh.（紅園が青鳥を拒めないように）

「国風（周南）」「桃夭」の「桃之夭夭，灼灼其華」より。

【第 507 句】　Ra tuồng *trên Bộc trong dâu*,（濮江のほとり桑林の中で密会するようなことをすれば，）
Thì con người ấy ai cầu làm chi.（その人は何も求めなくなってしまう。）

「国風（鄘風）」「桑中」の「期我乎桑中，要我乎上宮」より。

Trương Chính（1972）によると，*Kim Vân Kiều* には以上のような『詩経』を典故とする表現が計 46 か所見られるとのことである。

次いで，『詩経』「国風」の形式に従ってベトナム語の内容を漢訳することの必要性について考える。例えば，『大南寔録』正編第四紀嗣徳二年（1849）に以下のような記事が見える[6]。

「秋七月，…
清國欽使廣西按察使勞崇光及陪佐等抵京。
（中略）
辰崇光初抵京館，即求觀本國詩，乃命集諸皇親並諸臣名作者，名爲『風雅統編』許觀，崇光深所歡賞。」

6　慶應義塾大学言語文化研究所発行印影本（1973）に拠る。

（訳：　秋七月，
清国欽使広西按察使労崇光及びその一行が阮朝の都に至った。
（中略）
その時，崇光は都の公館に着くなり，本国の詩を見たいと要求した。そこで皇帝親族，臣下の名立たる作品を集めるよう命じ，『風雅統編』と名付け見せたところ，崇光は深く観賞した。）

『大南寔録』同年の記載によると，広西按察使労崇光は冊封使として阮朝ベトナムに赴いたことが分かるが，上記の記事により当時のベトナムにおける詩文についての情報を嗣徳帝に要求している事実が窺える。記事にみえる『風雅統編』の内容そのものについては，『漢喃遺産』に『日南風雅統編』[2540]の書名が見え，労崇光がその序文を道光二十九年（1849）に記し，漢文で記された「北使詩集」を主な内容としていることがわかる。重要な点は，中国側のベトナム詩文への関心に対し，言語上の問題から漢文を以てその要求に対応する必要があったという事実である。当時において『風雅統編』の内容とは異なるものの，ベトナム詩文の重要な一ジャンルを成す「歌謡」を漢文訳でもって中国に紹介しようとした事実も十分に想定されうるものと考える。

4. 国語字併記の意義

最後に，本資料の特徴の一つである国語字併記の問題について考える。

19 世紀末から 20 世紀初頭に活躍した南部出身の知識人 Trương Vĩnh Ký により chữ Quốc Ngữ（国語字）と名づけられたベトナム式ローマ字正書法であるが，「付図」に見る通り，漢文・字喃文とは別に手書きで国語字が版刻されている。その理由を考察するに当たり，本資料出版当時（20 世紀初頭）の文字使用状況について概観しておく。

19 世紀末のフランス植民地期当初，国語字を積極的に使用したのはカトリック教徒等，親仏的なベトナム人に限られた。つまり，伝統的な知識人層にとっては漢文・字喃文が学ぶべき書き言葉であり，国語字はその範疇外にあった。ところが，20 世紀初めになって植民地体制が安定してくると，まず直接支配下に置かれたコーチシナでフランス語と国語字を操る新たな知識人層が形成され，その後トンキン及びアンナンにおいても同様の知識人層を養成するために，1906 年植民地政庁により「仏越学校」が創設された。それと同時に科挙試験にもフランス語と国語字が課された[岩月 2005]。

このように北・中部ベトナムにおける国語字の地位の変化が正に 20 世紀初頭に起こり，科挙との関係からそれが積極的に学ばれたものと考えられる。本資料の様な形式は，恐らくその歴史的事実を反映しており，それまで書き言葉として漢文と字喃文を習得することで事足りていた北部出身の知識人達が国語字を知る必要性が生じてきたために，漢字と字喃に加えて国語字を併記したこのような資料が生まれてきたものと推測される。同様の形

式の資料は他にも散見されるが，いずれも 20 世紀初頭の同時期に出版されたものである[7]。

5. 20 世紀初頭北部方言の特徴

本資料の編者として想定できるのは，上述の通り伝統的知識人の中でも特に北部出身者であると考えられる。それは，その国語字綴りに多くの誤りが認められ，同時代の他の資料との比較，あるいは現代の正書法と 19 世紀以前の資料との比較から，現代のハノイ方言と同様の音韻状況が本資料の中に認められるからである。以下にその証拠となるいくつかの現象を分析する。

5.1. 国語字 d / r / gi の正書法上の混同

国語字で頭子音が d-, r-, gi-と綴られる語彙は，語彙毎に区別して表記され（da「皮膚」，ra「出る」，gia「(家) の漢字音」），中・南部の方言では区別して発音されることから[8]，個別の音素と考えられる。一方，現代ハノイ方言ではいずれも[z]と発音されることから，本資料における表記上の混同は当時の北部方言における同様の状況を示すものと考えられる。

例）dùng → rùng：字喃「用」（第二葉後），giếng → diếng：字喃「洢」（第三葉前），giăng → rang：字喃「{月+夌}」（第二葉後），etc.

5.2. 国語字 tr / ch の正書法上の混同

国語字で tr-, ch-と綴られる語も語彙毎に区別して表記され（tra「(査)の漢字音」, cha「父」），南部方言では tr [tʂ], ch [c]と区別して発音されるが，現代ハノイ方言では一律に[tʃ]と発音される。本資料で混同して表記されるのは，当時の北部方言における同様の特徴を表すものと考えられる。

例）trước → chước：字喃「{畧+先}」（第二葉前），chồng → trồng：字喃「{重+夫}」（第四葉後），etc.

5.3. 国語字 s / x の正書法上の混同

現代南部方言で song「しかし」[ʂɑˠŋᵐ]と xong「終える」[sɑˠŋᵐ]は異なる子音で発音されるが，ハノイ方言ではいずれも[sɑˠŋᵐ]と発音される。当時における同様の状況を反映した正書法上の混同と思われる例が以下のように見られる。

例）sớm → xớm：字喃「{日＊斂}」（第四葉前），xuống → suống：字喃「{竜+下}」（第

7 例えば，大阪大学外国学図書館所蔵の字喃資料『二度梅新傳』（啓定 4 年（1919），柳文堂蔵版本）には，全文国語字による序文と人物紹介文に加えて，字喃による六・八体本文の上段に物語の粗筋が国語字で記されている。また，Nguyễn Thuý Loan（2007）に紹介された『南國方言俗語備録』（維新甲寅年（1914），観文堂蔵版本）には，字喃本文の下段に国語字の転写文が記されている。いずれも手書きのローマ字が版本に刻されている。

8 例えば，Nghệ Tĩnh 省（現在の Nghệ An 省と Hà Tĩnh 省が分離する以前の省名）の方言では d が[z]，r, gi が[ʐ]のように発音され，一般に南部方言では r が[r]，d, gi が[j]と発音される[Hoàng Thị Châu 1989: 136, 148]。

五葉前），etc.

5.4. 国語字 tr / gi で綴られる音素の交替

本例は，上記 3 ケースとは異なり，音素間の交替である。現代ハノイ方言では，標準的な表記で tr-と綴られるものの多くが gi-と綴られ，発音も[z]となってしまう。同様の状況を示すと思われる以下の様な例が見られる。

例）trai → giai：字喃「{来+男}」（第二葉前），trăng → giăng：字喃「{月+麦}」（第五葉後），etc.

以上 4 つの現象は，いずれも現代ハノイ方言と一致するものであり，本資料の編者が 20 世紀初頭における北部出身者であったことを示唆する。そして，20 世紀初頭の北部方言において，現代ハノイ方言と同様の音韻状況が既に存在したことを示唆する重要な現象と言える。

夢蓮所述南國風百餘篇別著他集茲
畧採取千首以備諸詩体章章自有原音

子兮子兮人身欲成父訓母言側耳以聽

賦也此父母訓子之辭
琨喂惆敏身得聊聽聽祕仍咥媄吒

彼女子兮繡花織錦出學縫紝入專織紝

賦也妬長縱錦繞花欺色更緻欺番
繞繡

彼男子兮詩冊吟哦研求經史以俟開科

賦也糊長讀冊吟哦銖磨經史底除
大科

跂望來茲家聲克紹光面新榮顯親斯孝

賦也女枚綏鄭業茹跂羅沫栖蜥羅
顯親此期望之辭

子兮四章章四句

Con ôi muôn nên thân người
lắng tai nghe lấy những lời mẹ cha
Gái thì dệt gấm thêu hoa
Khi vào canh cửi Khi ra thêu thùa
Giai thì đọc sách ngâm nga
dùi mài Kinh sử để cho đại Khoa
rửa mai nối dòng nghiệp nhà
chiếc là mát mặt sâu là hiển thân

付図　第１葉後半（部分）～第２葉前半

資料　第一巻「承天府」の内容

以下に第一巻「承天府」の内容及び個々の歌謡（通し番号を《　》内に示す）の試訳を示す。字喃を含む本文の転写に際しては，以下の原則に従う。

1.　漢文・字喃部分

(1) 割註は〈　〉で示す。

(2) 判別が困難であるが，内容から該当の文字が推定できる場合は，その文字の後ろに「(?)」を置く。

(3) 欠字は□で示す。あるべき文字が推定可能な場合は，□内に該当文字を記す。

(4) 衍字は「[　]」で示す。

2.　字喃部分

(1) Vietnamese nôm preservation foundation による *Nôm Lookup Tools*（http://nomfoundation.org/vnpf_new/index.php?IDcat=51）で検索可能な範囲の字喃フォントを使用する。

(2) *Nôm Lookup Tools* にない文字の場合は，{　}内に漢字もしくはその部首を使用して記す。{A+B}は A が部首として左側に B が右側に位置し，一つの字喃を為すことを表す。{A*B}は A が上 B が下に位置し，一つの字喃を為すことを表す。

3.　国語字部分

(1) 原文通りの文字を示し，原文に正書法の誤りなどがある場合は，その表記の後ろの[　]内に正しい正書法を記す。

(2) 方言や古語による表記の差異がある場合は，その表記の後ろに（　）で現代ベトナム語の標準的な表記法を記す。

【本文】

國風詩集第一

承天府〈凡十二篇〉

仙峯夢蓮亭希亮甫撰

太僕卿杜鑑湖評

閣堂梅貞叔評

進士東溪阮瑺甫閒評

夢蓮所述南國風百餘篇別著他集茲

畧採取千首以備諸詩体〈章章自有原音〉

《１》

【本文漢訳部分】

子兮子兮，人身欲成，父訓母言，側耳以聽。
　賦也。〈此父母訓子之辭〉
【本文字喃部分】
　　𢧐喂憫𢦏身得，𨑮聰𢬵𢘊仍唾嫉吒。

彼女子兮，繡花織錦，出學縫針，入專織紝。
　賦也。
　　妈辰𢇁錦繞花，欺𠘧更緻欺{皿*大*出}繞{糸+殊}。

彼男子兮，詩冊吟哦，研求經史，以竢開科。
　賦也。
　　𣗥辰讀冊吟哦，{金+耒}{石+埋}經史底除大科。

跂望來茲，家聲克紹，光面新榮，顯親斯孝。
　賦也。
　　女枚綏鄧業茹，{畧+先}羅沫𦊚𧻚羅顕親。

　子兮四章章四句〈此期望之辞〉

【本文国語字部分】
Con ơi muốn nên thân ngươi [người]
lắng tai nghe lấy những lời mẹ cha
Gái thì dệt gấm thêu hoa
khi vào canh cửi khi ra thêu thùa
Giai (trai) thì đọc sách ngâm nga
dùi mài kinh sử để chờ đại khoa
Nữa mai nối dạng nghiệp nhà
chước [trước] là mát mặt sau là hiển thân

【試訳】
子どもよ，立派な大人になるためには親の言うことをよく聞きなさい。
女は絹を織り花を刺繍する。機織り部屋では機を織り，その外では刺繍をする。
男は書を読み詩を吟ずる。学問に励み，大科[9]の日を待つ。
将来家業を継ぐことが出来れば，まずは家族が顔を綻ばせ，次いで自分も出世する。

9　朝廷で行われる大規模な科挙試験を指す。

《２》

徘徊桂彙，照彼閒階，鞳鞳鐘聲，增絆予懐。

　興也。

　　{足+朗}{足+芦}彙桂燽{土+薈}，鐘迻八{口+兀}強添絆悉。

盛彼金刀，盛絨之袋，知君子心，有無我愛。

　賦而比也。

　　刀鐄{扌+補}{衤+怠}金絨，別浪君子固用些庄。

殘燈一盞，月影依稀，誰將玉人，逍遥于斯。

　賦而興也。

　　畑殘湿{火+尚}膀腋，埃{扌+冗}得玉舂升准尼。

桂影三章〈此女慕男子之辞〉

Lững lờ vừng [vầng] quế soi thềm
chuông đưa bát ngát càng thêm bân [bận] lòng
Dao vàng bỏ đẫy kim nhung
biết rằng quân tử có rùng [dùng] ta chăng
Đêm tàn thấp thoáng bóng rang [giăng (trăng)]
ai đem người ngọc thung thăng chốn nầy [này]

【試訳】

月明かりが回廊をぼんやりと照らし，鐘の音が鞳鞳と響き渡るとさらに不安が募る
金の刀はビロードの袋[10]に入れるもの。君子は私など使ってくださるのだろうか
灯りは消え，月の光りばかりが見え隠れする
一体どうしてこの玉人がこんなところでさまよっているのだろうか

《３》

嗟我何功，章臺之壻，喫盡茄埕，十一十二。

　賦也。

　　功英宀壻章臺，咬歇迸爻迸匸壻茹。

井在何方，携我同行，不然今夕，予及茹偕。

[亡]　　賦也。

10　金の刀とビロードの袋はいずれも高貴な人物を例えた表現。

洴兜辰揉英{皿*大*出}，{扌+亟}[11]辰英蕘{足+尭}茄聒{尼+今}。

章臺二章〈此贅婿自嘲之辞〉

Công anh làm dể [rể] chương đài
ăn hết mười một, mười hai vại cà
Diếng [giếng] đâu thì dắt anh ra
chẳng thì anh chết với cà đêm năy [nay]

【試訳】
大家の婿になる[12]苦労
もう 11，12 壺の茄子を食べてしまったよ
どこかに井戸があったら連れて行っておくれ
そうでなきゃ今夜の茄子で死んでしまうよ[13]

《４》
人之登山，于心忻然，胡我登山，維攀與穿。
　比而賦也。
　　得些蓮肖辰慥，{牢+何}碎蓮肖仍{首+堆}拱{足+朝}。

巉岩之石，何嶙峋兮，安得君子，以投身兮
　比也。
　　跋崚{魂+く}碆{山*招}{山*寮}，別兜君子麿招命飜。

登山二章〈此處女求配而未獲之辞〉

Người ta lên núi thì vui
sao tôi lên núi những chui cùng chèo
Gập gềnh [ghềnh] hòn đá cheo leo
biết đâu quân tử mà deo [gieo] mình vào

11　正しい字体は「拯」。以下同様。
12　当時の農村の慣習で，結婚が決まった男性は結婚前に婚約相手である女性の家で一定期間婿養子として働いていた[Đào Duy Anh 1938: 188]。
13　この詩は，男性が裕福な一家で婿養子になる際の苦労を詠ったもの。「茄子」はその家で与えられた粗末な食事を表す。「もう 11，12 壺の茄子を食べてしまったよ」という表現で婿養子の期間が長期に亘っていることを表す。また「どこかに井戸があったら連れて行っておくれ」は，その茄子の塩辛さを癒す水を求めており，当時の婿養子の過酷さを表すものである。

【試訳】
他人は楽しい山登り
だけど私にゃ茨の道
断崖絶壁岩だらけ
身を捧ぐべき私の君子
一体どこにいるのやら

《５》
郎兮郎兮，負妾何爲，妾如冷飯，可以療饑。
　賦也。
　　払喂負妾ㄇ之，妾如餂洌拖欺餂悉。

郎兮一章〈此婦人責望其夫之辞〉

Chàng ơi phụ thiếp làm chi
thiếp như cơm nguội đỡ khi đói lòng

【試訳】
あなた，私のことを捨てないで
私は冷えたご飯のように，あなたがお腹がすいたとき
飢えを癒すことぐらいならできるから

《６》
彼山誰築，成此高岑，此江彼海，誰浚成深。
　賦而比也。
　　肉箕埃塔毧高，滝箕{氵+彼}怒埃淘毧淒。

一心愁了，六七心愁，在彼樂兮，孰知我憂
　賦也。
　没悉愁甑氍悉愁，帝慥固別底憂穷庄。

願月一月，兩度虧盈，願彼何居，俾得我心。
[平]　此而賦也。
　　憫{星+牢}腦矼旬腋，憫{星+牢}帝於朱朋悉底。

嗟嗟老母，在彼高堂，昏定晨省，我心則康，
増爾孝思，鐵堅朱赤，[縦]風月爾心，誰尋誰覓。

賦也。

嫉{茶+老}於准茹莩，𡢁探最咏朱停悉婑，

悉𦉢腋鉄強添，悉钅皮腇𨱗埃尋𩁹埃。

築山四章〈此婦人責夫之詞，首章言已治家之勤，末則以夫不顧己母而言〉

Núi kia ai đắp nên cao
sông kia bể nọ ai đào nên sâu
Một lòng sầu năm bẩy lòng sầu
đầy [đấy] vui có biết đây sầu cùng chăng
Muốn sao tháng hai tuần dăng [giăng (trăng)]
muốn sao đấy ở cho bằng lòng đây
mẹ dà [già] ở trốn nhà danh [gianh (tranh)]
Xớm [sớm] thăm tối viếng cho đành lòng em
long [lòng] sơn [son] dạ sắt càng thêm
lòng đà dăng [giăng (trăng)] gió ai tìm thấy ai

【試訳】
その山は一体誰が土盛りしてそんなに高くなったのか
その川やあの海は一体誰が掘ってそんなに深くなったのか
ひとつ，ふたつと寂しさが募る
そちらで楽しくしているあなたにこちらの寂しさがわかるものですか
ひと月に月が二度満ち欠けしたらいいのに
向こうにいてもこちらの気持ちをわかってくれればいいのに
茅葺きの家に住む年老いた母親を，朝に訪ね夜も訪ねる
そうすれば私の気持ちは安らぐのに
私の気持ちは強くなっていくばかりなのに
あなたの心は色に狂い一体誰を探しているのやら

《７》
彼瓢船兮，迴楫東帰，子去従夫，母将疇依。

賦也。

船瓢跙梩術東，𢧐𢧐蹺{重+夫}底嫉朱埃。

老母年兮，已有男子，出嫁従夫，兒女分事。

賦也。

嫉{茶+老}钅固𢧐{來+男}，𢧐羅分妈監差𢧐従。

指誓如之何，水碧山青，相従全諠，何問乎死生。
　賦也。
　　指誓渃碧嫩撑，蹺饒朱論死生拱停。

浩浩高天，汪汪大海，何必能全，夫妻情愛。
　賦而此也。
　　至高滂{氵+弄}濛溟，於{牢+何}朱論心情夫妻。

金盟玉約，業巳相締，縦然阻隔，何有手〈江渓〉。
　賦也。
　　卒𦉢玉約鐄誓，油麻隔阻江渓拱料。

瓢舟五章〈此婦人従夫遠別其母而作此章〉

thuyền bầu dở [giở (trở)] lái về đông
con đi theo trồng [chồng] để mẹ cho ai
mẹ già đã có con giai (trai)
con là phận gái dam [dám] sai trữ [chữ] tòng
chỉ thề nước biếc non sanh [xanh]
theo nhău [nhau] cho chọn [trọn] tử sinh cũng đành
Dời [Giời (Trời)] cao bể rộng mênh mông
ở sao cho chọn [trọn] tấm tình phu thê
Chót [Trót] đà ước ngọc[14] vàng thề
dù sao[15] cách chở [trở] dang [giang] khê cùng liều

【試訳】
瓢箪船が東方に舵を切る
私が嫁に行ったら母は誰と暮らしていくのだろう
老いた母には息子がいるので，女である私は「従」[16]に従うしかない
澄んだ碧い水と青い山に
一生添い遂げることを誓うのだ
この高い空，広い海で，一体どうすれば夫婦の義理を果たすことができるのだろう
至玉の誓いを立てた以上，川に隔てられても耐えるしかない

14　字喃文より ngọc ước とすべし。異文にも同様の表現あり[Việt Chương 2003 下: 585]。
15　字喃文より mà とすべし。
16　ベトナムでも女性は「三従」の教えに従うべきとされていた[Phan Kế Bính 1992: 62]。

《８》
風飄草樹，九里香兮，遠我父母，食失常兮。
　興而賦也。
　　𨑹迻核九里香，徐賒吒嫄失常餂咴。

我私愁兮，飯不欲餐，既捧斯鉢，復置斯盤。
　賦也。
　　愁穩餂{扌+亟}憫咴，𦉢抹衹鉢吏{扌+陳}{竜+下}樓

風飄二章〈此孝子思親之辞〉

Dó [Gió] đưa cây cửu chùng [trùng][17] hương
dầy[18] sa [xa] cha mẹ thất thừng [thường] bữa ăn
Sầu riêng cơm chẳng buồn ăn
đã bưng lấy bát lại dằn suống [xuống] mâm

【試訳】
九里香の香りが風と共にやってきた
父母を離れた今，ろくに食べもせず
悲しみのあまり食も進まず
茶碗を取ってはみるものの，また盆に叩きつけるだけ

《９》
夜望明月，愧彼誉穹，対鏡偏慚，人在鏡中。
　興而賦也。
　　{竜+望}腔麿慥貝歪，燗鈴麿慥貝俣靹鈴。

嗟妾身兮，千金價値，冐暑衝霜，久將委棄。
　賦也。
　　身尼價當彡鐄，扒{扌+尤}焔{火+曩}油霜閉迡。

此心何其，辛苦他方，慘築愁堆，久已成墻。
　賦也。
　　{牢+何}悉{尭+多}餒蓋苳，閉数慘質愁磋缺墻。

17　Cửu chùng [trùng] hương という語はベトナム語になく，漢訳部分から類推するに正しくは cửu lý hương だと思われる。実際に cửu lý hương とする異文がある[Việt Chương 2003 上: 620]。lý が chùng [trùng]と書かれたのは，「里」と「重」の字体の混同によるものであろう。
18　字喃文より giờ「今」とすべし。

望月三章〈此婦人爲夫所棄而作此以自嘆〉

Chông [Trông] giăng (trăng) mà thẹn mấy[19] giăng (trăng)[20]
soi hương [gương][21] mà thẹn mấy người chong [trong] hương [gương][10]
Thân nầy [này] dá [giá] đáng nghìn vàng
bắt đem dãi nắng dầu sương mây [bấy] chầy
Sao lòng lắm nỗi đắng căy [cay]
bấy lâu thảm chất sầu sây [xây] nên tường

【試訳】
月を見ては月に恥じ，鏡を見ては鏡に映る自分を恥じる
この身は千金の価値があったのに，長い間日光や霧に晒されてしまった
どうして心がこんなに苦しいのだろう
募った悲しみで壁ができるほどに

《10》
彼鳥食兮，南梅之菓，誰其爲之，僧人被鎖。
　興而此也。
　　琨鴣哸菓蒲{木+(少*免)}，埃宀鍼餒柴修{扌+芒}鋥。

彼僧人兮，言語囂兮，我訴大官，鎖僧人兮。
　腑也。
　　柴修哸吶茹穔，婟嗾官藾揀鋥柴修。

鳥食二章〈此刺僧人之犯法而作此以嘲之〉

Con chim ăn quả bồ cu[22]
ai làm nên nỗi thay [thày] tu mang siềng [xiềng]
thày tu ăn nói ngã nghiêng[23]
em thưa quan lớn đóng siềng [xiềng] thày tu

19　字喃文より với「～に対して」と表記すべきであり，với を用いた異文もある[Việt Chương 2003 下: 685]。
20　字喃文より trời と表記べきであり，trời を用いた異文もある[Việt Chương 2003 下: 685]。
21　漢訳文，字喃文から類推するに hương ではなく gương「鏡」と表記するべきである。Việt Chương（2003）でも gương と表記されている[下: 685]。
22　bồ cu vẽ（黒面神，学名：Folium et Cortex Breyniae fruticosae）を指す可能性があるが，字喃文から bồ nu または bồ nâu と読むべきであり，一般に bồ nu と口承される。現代ベトナム語では bồ nu に当たる植物は見当たらないが，cây củ nâu（ソメモノイモ，学名：Dioscorea cirrhosa Lour）の木を指すのか。
23　字喃文から cà/nhà/như/nhựa riêng/riềng と読めるが，cà riềng とするテキストが一般的であり[Việt Chương 2003 上: 555]，漢文訳を見ても cà riềng とするのが妥当であろう。

【試訳】
まるで鳥が bồ nu の実を食べるよう
一体誰がお坊さんに鎖をつけたの
お坊さんがひどい言葉を言うから
あの人に鎖をつけてと私がえらいお役人に訴えたの

《11》
母兮母兮，子不嫁民，無邇無遐，嫁彼清人。
　賦也。
　　媄喂琨{扌+亟}衩民，油賒油斯衩客靡催。

嫁清人兮，重衣是穿，履此紅鞋，坐彼高廛。
　賦也。
　　衩客鄧黙襖堆，鄧趂鞋藐鄧[15]{坐+外}几高。

寧我食兮，{魚+列}魚之味，無嫁清人，頭上有尾。
　此也。
　　時浪咴魦{魚+列}{氵+吹}，{扌+亟}時衩客固雕逵頭

母兮三章〈此刺貪利而以女嫁商故隣人作此以嘲之〉

mẹ ơi con chả[24] lấy dân
dù xa dù gần lấy khách mà thôi
lấy khách được[25] mạc [mặc] áo đôi
được đi hài đỏ được ngồi ghế cao
thà rằng ăn cá diêc [diếc] chôi [trôi]
chang [chẳng] thà lấy khách có đuôi trên đầu

【試訳】
お母さん，私は庶民とは決して結婚しない
近かろうが遠かろうが中国人と結婚する
そうすれば綺麗な服を着て，赤い靴を履き，高い椅子に坐ることができる
（だけど私は）頭に尾のある[26]中国人と結婚するくらいなら鮒や鰍魚[27]を食べたほうがまし

24　字喃文から chẳng と表記すべきところを，同意の chả で表記している。以下同様。
25　字喃文から đặng と表記すべきところを，同意の được で表記している。以下同様。
26　「辮髪」を指す。
27　鮒，鰍魚は庶民がよく食べる魚であり，ここでは平凡なベトナム人と結婚することを象徴している。

だ

《12》

彼何人斯，嘽嘕其啼，陟彼虬蒙，新兵之妻。

賦也。

箕埃喈哭咛{口+嫩}，意媱另買{足+朝}丸{山*召}峨。

擡擡負ヌ，嗟我何堪，負簣從夫，七剩其三。

賦也。

功碎梗ヌ{扌+穷}ヌ，跙{山*大*出}蹺{重+夫}{罢+七}被群三。

憶妾在家，依娘與爺，爺娘珍惜，如枝上花。

賦而比也。

碎於拱媄拱吒，媄吒拒耿如花連梗。

今妾來茲，為郎家婦，郎恋嬌顏，將妾情負。

賦也。

碑晾碎於拱英，英貪顏色英情負碎。

土之磽瘠，鑄不成堝，郎今娶室，妾別求家。

比而賦也。

坦醜攤{扌+亟}坳∽毧，英毖袛媱辰碎袛{重+夫}。

願郎娶妻，隔河之廣，俾妾嫁夫，在郎門巷。

賦也。

英時袛媱隔滝，底碎袛{重+夫}鼬圩英{山*大*出}。

虬蒙六章〈此戍婦怨其夫悦於新婚而負己也〉

Kìa ai tiếng khoc [khóc] nỉ non

ấy vợ lính mới trèo hòn thiêu nga[28]

công tôi gánh gánh gồng gồng

28　字喃部分を国語字転写すると thiêu nga の部分は đèo Ngà と読むべきであるが，異文として đèo Ngang と Cù Mông が知られる[Việt Chương 2003 上: 744]。前者は Hà Tĩnh 省と Quảng Bình 省の堺にある峠で，後者は Bình Định 省と Phú Yên 省の堺の峠名である。後者を漢字表記すると「虬蒙」となり，漢訳部分に見える表現と一致する。恐らく漢訳は Cù Mông を含む異文により，本テキストの字喃及び国語字部分の表現は他のテキストに拠ったものであろう。因みに，đèo Ngà については，北部ハイズオン省に đèo Ngà という名の峠があるがこれのことか。

chỉ ra theo trồng [chồng] bẩy bị còn ba
Tôi ở cùng mẹ cùng cha
mẹ cha nưng [nâng] dấc [giấc] như hoa trên cành
bây giờ tôi ở với[29] anh
anh tham nhan sác [sắc] anh tình phụ tôi
(Đất xấu nặn chẳng nên nồi
anh đi lấy vợ thì tôi lấy chồng[30])
anh thì lấy vợ cách sông
để tôi lấy trồng [chồng] trong ngõ anh ra

【試訳】
誰かがすすり泣く声がする
ほらあれは Ngang 峠（または虬蒙峠）を登っていく新兵の妻だ
私の苦労は計り知れず
ただ夫に従い多くのものを失った
両親と暮らしていた頃は
両親は枝の上の花のように私を大切にしてくれた
あなたと暮らすようになった今
あなたは色を好んで私を捨てた
（悪い土では鍋は造れない
あなたが結婚するならば私も結婚する）
あなたが向こう岸の人と結婚するなら
私はあなたの近所の人と結婚してやるわ

参考文献

岩月純一, 2005,「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」,『漢字圏の近代　ことばと国家』（村田雄二郎，C・ラマール編），東京大学出版会, pp.131-148.

Đào Duy Anh, 1938, *Việt Nam văn hóa sử cương*（ベトナム文化史綱）, Nxb. Bốn Phương.

Hoàng Thị Châu, 1989, *Tiếng Việt trên các miền đất nước – Phương ngữ học*（各地方のベトナム語　―方言学）, Nxb. Khoa học Xã hội.

Nguyễn Du, *Truyện Kiều*（翹伝）, Đào Duy Anh (văn bản cơ sở và chú giải), 1979, Nxb. Văn học.

Nguyễn Thuý Loan, 2007, *Tục ngữ trong sách Hán Nôm*（漢字・字喃資料の中の諺）, Nxb. Văn học.

29　字喃文によれば cùng と読むべきであるが，ここでは同意の với と表記されている。
30　（　）内の部分は本テキストの国語字部分に抜けているため，字喃文を国語字転写したものを記す。異文として Đất xấu nặn chẳng nên nồi / Anh đi lấy vợ, để tôi lấy chồng. がある [Quách Xuân Lưu 2005: 87] 。

Phan Kế Bính, 1992, *Việt Nam phong tục*（ベトナム風俗）, Nxb. T.P. HCM.

Quách Xuân Lưu, 2005, *3000 câu ca dao trong trí nhớ*（記憶の中の歌謡 3000 句）, Nxb. Thanh niên.

Trương Chính, 1972, Cha ông ta đã phấn đấn như thế nào để ngôn ngữ văn học dân tộc ngày càng trong sáng và phong phú, *Ngôn ngữ*, 2, Viện Ngôn ngữ học, pp.1-11; 20.

Viện Nghiên cứu Hán Nôm và Học viện Viễn Đông Bắc Cổ Pháp, 1993, *Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu*（ベトナム漢字・字喃遺産―書目提要）, Nxb. Khoa học Xã hội.

Việt Chương, 2003, *Từ điển thành ngữ tục ngữ ca dao Việt Nam (quyển Thượng, Hạ)*,（ベトナム成語・俗語・歌謡辞典　上・下）, Nxb. Tổng hợp Đồng Nai.

(2011. 12. 24 受理)